

和 ~ なごみ ~

経鼻内視鏡検査について

鼻から入れる



内科部長 中谷 臣吾

「胃カメラ」と聞くと、つらくて、苦しい検査というイメージがありませんか？当院では、鼻から入れる上部消化管内視鏡検査を行っています。

「胃カメラは苦しい」と感じている方は多いと思いますが、どうしても検査の途中で「オエー」となってしまうからでしょうか。これは舌の付け根の舌根という部分に胃カメラが当たり、咽頭反射（嘔吐反射）が起きてしまうのが原因です。（図1）



鼻から入れる内視鏡では、スコープが舌根に触れないため咽頭反射が起これず、「オエー」となる感じはほとんど起こりません。鼻に適したしなやかさで無理なく挿入でき、鼻腔内には麻酔剤を塗布するため鼻の痛みもほとんどありません。また検査中は医師と会話することができ、モニターに映し出される自分の胃の映像を見て質問したり、気分が悪くなったらそれを伝えることができます。

当院では、2007年5月よりオリンパス社製の経鼻内視鏡（GIFXP260N）を導入しております。この内視鏡は先端部5ミリと鉛筆よりも細く（図2）、また2ミリの鉗子口（図3）を備

えていますので、胃液の吸引や組織採取なども行えます。



図2

図3

経鼻内視鏡の検査日

現在、経鼻内視鏡の検査は、毎週、月・金曜日に行っています。詳しくは、診察時に担当の先生に御相談下さい。



せん。また、飲み込む動作を必要としないため挿入時の苦しさ（苦痛感が極めて軽く、のをいつ通過したのかほとんど分からないほど自然に食道へ進んでいきます。

なお、鼻腔の状態や患者様の容態によっては、鼻からの挿入が困難な場合があります。経鼻内視鏡検査は非常に細いため、治療・処置には適しません。挿入が困難な場合は従来の口からの内視鏡を行います。

その後、内視鏡は鼻からスムーズに挿入されていきます。鼻の違和感はありませんがスコープが細いため苦痛を感じるほどではありません。スコープは舌根を通らずに鼻からのどに達するので、吐き気はほとんど起こりません。

最も経鼻内視鏡検査を受けて頂きたい方は、以前に口からの内視鏡検査を受けて「オエー」となり、もう二度とやりたくないと考えられている方です。もう一度とやりたくない方、「鼻からならまた受

決して気持ちが良いというほどではありませんが、身体的に優しく精神的にも楽な検査であると思われま

内視鏡検査に抵抗感がある方、今までの口からの内視鏡で苦痛を感じたことのある方は、鼻からの内視鏡検査を一度受けてみて下さい。

検査を受ける不安よりも、楽に検査を受けて安心して頂くことをお勧めします。

新入職医師の紹介



透折科 中山 芳夫

9月から透折科を担当し、お世話になっております。病院のスタッフの方々にも何かと御迷惑をおかけしては思いますが、広い心で見守って下されば幸いです。

が26床、透折患者100名と小規模病院で、もちろんオートリングは導入されておりました。それが災いしてか、この約3ヶ月はオートリングと格闘し困惑の毎日、結果、非常に良い勉強をさせて頂いております。

私が透折を担当させて頂いてから、透折科の内容を変更したり、血液検査、画像検査を増やしたりと、とくに透折室スタッフの皆様の中で、よく大変さん小河畑さん、時々、村上君には御尽力頂いております。東野さん



整形外科 北田 誠

平成19年7月1日に協和会病院整形外科に異動となり、既に半年近くになります。整形外科としております。整形外科を志して7年が過ぎ、今後は人工関節に

たずさわっていきたくと考えていたため、手術症例の豊富な当院への異動は大変喜ばしいことです。当院での勤務の長い方々にはあまり知られていないと思いますが、



病院機能評価認定取得

2007年10月1日付けにて、医療法人協和会 協和会病院は、(財)日本医療機能評価機構による病院機能審査の結果、〈一般・療養200床以上500床未満〉の部門《Ver.5.0》認定を受けました。

PT科

職場紹介

5階病棟

若さみなぎる理学療法科(PT科)の職場紹介を行いたいと思います。

現在、理学療法科にはセラピスト24名(老健出向中2名含む)、助手2名が所属しております。理学療法の対象は若年の方から高齢の方まで、また脳血管疾患を中心とした中枢神経疾患や骨折・人工関節手術後を中心とした整形外科疾患など多岐に渡ります。



スタッフもベテランから新人まで取り揃えており、和気あいあいと活気にあふれ、この夏の猛暑の影響もありテカテカと輝きながら日々頑張っております。患者さんに対し、より良いサービスをいかに提供するかを考えつつも、その傍ら病院業務以外の行事…。要するに、何事に対しても真面目に、そして真剣に、その上熱心に取り組まざるにはられない集団だということです。今後とも何卒よろしくお願い致します。(理学療法科 村上正住)

5階病棟の紹介をします。

5階病棟には主に透析やリハビリが必要な患者さんが入院されています。日常生活の援助が必要な患者さんが多いので、私達スタッフはいつも患者さんの立場に立ち、どのような援助や環境が適しているのかを考えるように心がけています。



スタッフの年齢が若い事は当院の特長でもあります、特に5階病棟のスタッフは若くてかわいいことが強みだと思っています。いつも協力しあって明るく頑張っています。若いゆえにまだまだ努力していかなければいけないところもありますが、元気いっぱい頑張って勉強していきたいと思っています。(看護部主任 山口里美)



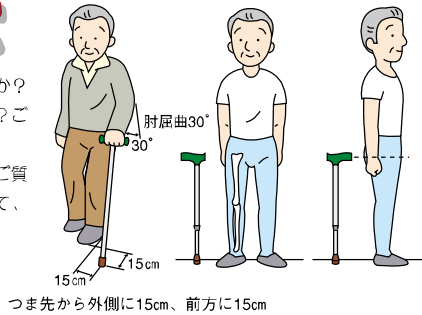
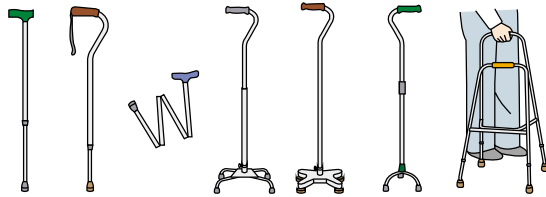
杖について

皆様、杖を使われたことはありますか？杖の高さやどちらの手で持つのか？ご存じでしょうか？日頃、患者様やご家族様からよくご質問を頂く「杖の合わせ方」について、簡単にご紹介させていただきます。

杖の高さ (右図参照)

- ①肘を30°曲げて、つま先から外側15cm、前に15cmで軽く握れる高さ。
- ②床面から大転子までの高さ。(大転子とは、ふとももの外側の突出している骨です。)
- ③肘を伸ばしたままで、床面から茎状突起までの高さ。(茎状突起とは、手首の小指側の突出している骨です。)

杖の種類



杖を持つ手 障害されている反対側

その他として杖の地面側に杖先ゴムがついています。これは、杖をついた時に滑らないように装着されています。磨り減った杖先ゴムは滑りやすく、転倒しやすくなることが考えられるため、磨り減った際には早期に交換することをお勧めします。杖についての質問や、自分自身で調節することが困難な際には、お気軽にリハビリ科までご相談下さい。(理学療法科 面田真美)

協和会病院ご案内

- 医療法人協和会 協和会病院 吹田市岸部北1丁目24番1号 (代) 06-6339-3455
- 理事長/木曾 賢造
 - 院長/増田 公人
 - 開院年月日/1988年(S63)3月
 - 診療科目/内科、循環器科、消化器科、整形外科、脳神経外科、放射線科、リウマチ科、リハビリテーション科
 - 専門外来/泌尿器科(月曜日13:00~14:45)
 - 診察時間/午前診 9:00~12:00(月~土曜日)
- ※救急医療については、夜間・休日以外の日勤帯はお受けしております。

一知・技・心

病院理念: 専門的な知識と技術の向上を図り心をこめて安心の医療を提供します

基本方針: 1. 「患者様中心」を常に心がけ満足される医療を提供します
1. 急性期から回復期まで、地域に求められる医療を提供します
1. 医療技術の向上につとめ専門性の高い医療を提供します
1. 人員・設備・環境を整え安心で安全な医療を提供します
1. 患者様・職員共に人権を尊重し公正な医療を提供します

最良のサービス 質の高い医療 患者様 地域の整備 地域医療 人権の尊重

医療法人 協和会 協和会病院 2006.2.1 改訂

パラメディカル 一次救命処置研修開催



みなさん、もし自分の家族や患者様、あるいは街中で人があなたの目の前で突然、意識をなくされたらどうしますか？救急車やドクターが来てくれるのをじっと待っているでしょうか？心停止に陥れば1分1秒を争います。

このような人に対して特殊な器具や医薬品を使用せずに行う心臓や呼吸の機能を回復させるための手当てが一次救命処置です。協和会病院では今年6月より毎月1回、計5回

にわたりパラメディカルスタッフを対象として一次救命処置とAEDの研修が行われています。これにより、対象者の90%が受講終了となります。来院して頂いた皆様の安全を確保し、安心して来院していただけるようこれからも普及・習得に努めていく方針です。



検査科 科長代理 野口 智幸 (日本救急医学会認定インストラクター) (大阪ライフサポート協会認定インストラクター) (ACLS大阪認定インストラクター)

協和会病院ガレージセール開催しました!

平成19年10月14日の日曜日、天候は心地よい曇りのなか、職員みんなで品物を持ちよりガレージセールを開催いたしました。

沢山のお客様に会場して頂きありがとうございました。参加職員の声 皆さんにお届けします!!



新人ナースN 「ご入院中の患者さんがとても明るい笑顔でお買い物をされてました。いつもとは違う印象で嬉しくなりました!!」



病棟秘書Y 「旦那様が奥様にプレゼントすると格安の洋服をたくさん購入されてました。すてきでしたね〜ただ…サイズが心配です(笑)」 などなどエピソードが沢山でした。ありがとうございました!! (看護部課長 杉原幸恵)

編集後記

皆様方のご意見、ご感想を聞きながら更なる内容の充実を図って参りたいと考えております。次号の発刊は、来年4月頃を予定しております。《広報誌委員長 北村博可